



平成 24 年 12 月 20 日

各 位

会 社 名 スパークス・グループ株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 阿 部 修 平
(コード 8739 JASDAQ スタンダード)
問い合わせ先 取締役 藤 井 幹 雄
電 話 番 号 0 3 - 6 7 1 1 - 9 1 0 0

発行体格付の変更に関するお知らせ

当社は、平成 24 年 12 月 20 日、格付会社の株式会社格付投資情報センターより、発行体格付が、「BBB」(格付の方向性:ネガティブ)から「BBB-」(格付の方向性:安定的)に変更された旨の通知を受けましたので、お知らせいたします。

なお格付の定義などにつきましては、株式会社格付投資情報センターのホームページ等をご参照下さい。

以上

(参考)

「株式会社格付投資情報センター」による格付の変更理由(抜粋)

今回の格下げは、厳しい運用環境が続く中、運用資産(AUM)の平均残高減少から基礎収益の赤字が続いているほか、自己資本が大きく目減りしたことを重くみたものだ。日本を代表するヘッジファンドとしての地位は揺らいでいないものの、日本株のロング・ショートなど通常の戦略では高いパフォーマンスを上げにくくなっており、資産を集めにくくなってきたことも反映している。

R&Iは、AUMの低迷で収支・財務が悪化しているスパークス・グループについて、昨年12月に1ノッチ格下げしたうえで、方向性をネガティブにし、AUMが回復に向かうか見守ってきた。しかし2012年度に入ってから平均AUMは5000億円を下回り、残高報酬から運用に要した手数料や人件費などの経常的経費を控除した基礎収益は赤字から脱却できていない。当期損益の赤字が続いており、2006年度末に500億円近かった自己資本は100億円を下回るまでになっている。

もともと、のれん償却前の営業損益は黒字を確保しており、資金が不足しているわけではない。有利子負債が減り資本負債構成は改善している。AUMの新規獲得で残高報酬率の低下に歯止めがかかる一方、損益分岐点が下がり収益底入れの兆しが出ている。のれんの残高減少などで自己資本を毀損するリスクも限定的になっている。これらを踏まえ、格付の方向性は安定的とした。

株式会社格付投資情報センター ホームページアドレス:

<http://www.r-i.co.jp/jpn/>